

令和4年度 島根県学力調査結果及び分析（松江市立川津小学校）

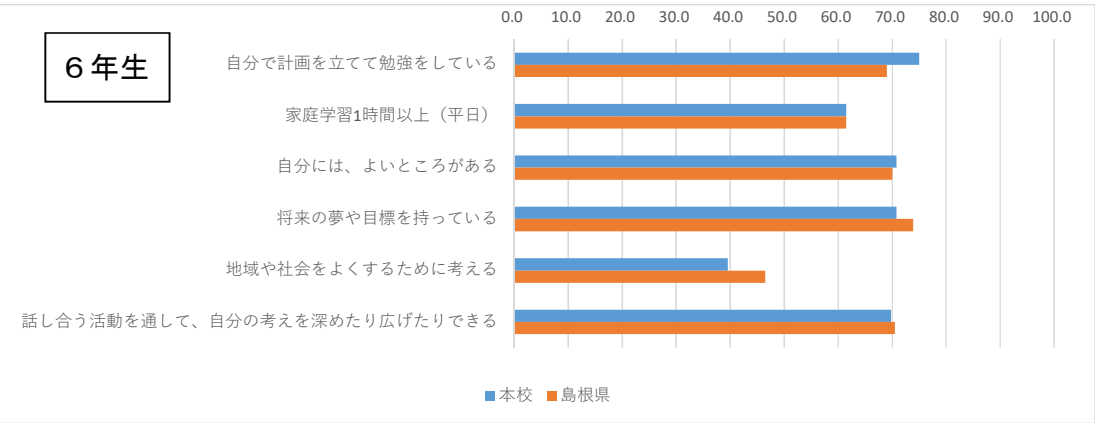
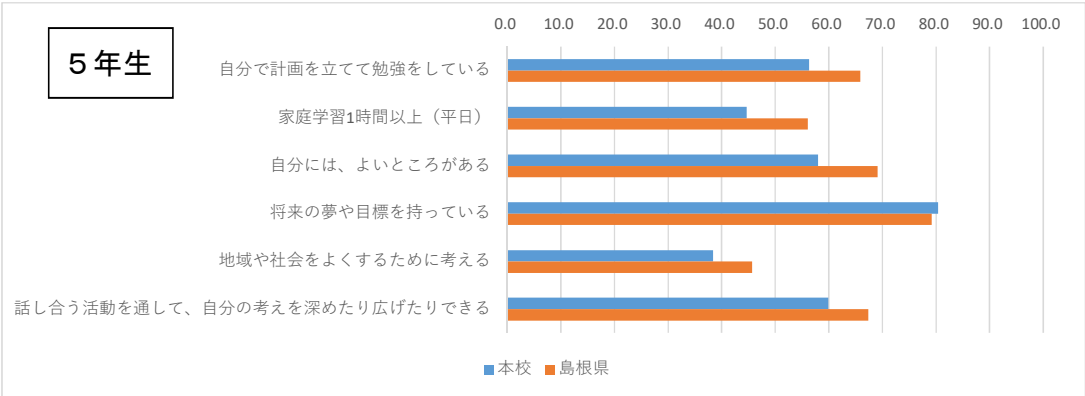
(1)学力調査結果から見られた成果と課題(○:成果 ●:課題)

5 年 国 語	○物語や説明文の内容を読み取る問題の正答率が高く、登場人物の心情を描写をもとに捉えたり、文章全体の構成を的確に捉えたりする力がしっかりと付いている。 ●聞き取りの問題の正答率が低かった。話し手の目的を考えながら、大事なことを聞き落とさずに聞く力に課題がみられる。	6 年 国 語	○昨年の調査と比較すると、わずかではあるが全体的な正答率が上がっている。とくに「話すこと・聞くこと」領域はよくできていて、聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える力がついており、「聴く力」を意識してきた成果が感じられる。 ●複数の情報を整理して考える問題の正答率が低かった。多くの情報から必要なものを選び出し、比較したり関連づけたりして自分の考えをもととすることに課題がみられる。
5 年 算 数	○「変化と関係」領域の正答率が高く、比例の意味理解がしっかりとできていることがうかがえる。また、図形の問題もよくできていて、作図や操作活動などを意識的に取り入れた成果が表れている。 ●「データの活用」領域では平均をもとに考える問題の正答率がやや低かった。形式的に平均を求めるだけでなく、日常生活に生かす機会をもたせるようにしたい。	6 年 算 数	○「図形」領域の作図問題がよくできていた。授業の中で、作図や操作活動などを多く取り入れることを続けてきた成果が表れている。 ●全体的に昨年の調査より正答率が下がっている。分数の計算、比の値の問題が特に定着できていない。目標値に達していない項目が多く、課題は大きい。

(2)生活意識調査から見られた成果と課題(○:成果 ●:課題)

5 年	○将来の夢や目標を持っている児童の割合が高く、自分の将来を見据えて学習に取り組んでいると考える。 ●自分で計画を立てて勉強している全体の割合は低いが、学力上位・中位層の肯定的回答の割合は高い。反面、学力低位層の肯定的回答の割合が低く、低位層の意識の底上げが必要である。 ●家庭学習も30分くらい以上の割合が多い。	6 年	○意識調査の割合は、県とほぼ同じか、県を上回っている項目が多い。 ○特に自分で計画を立てて勉強している児童の意識が全体に高く、勉強する場所を決めたり、集中して学習したりの項目の高さからも自主的に取り組もうとする姿が伺える。 ●地域や社会への貢献度への意識はかなり低い。
--------	--	--------	--

(3)意識調査(教育委員会として注目している項目のうち、全国学力・学習状況調査と同様の質問項目を挙げています)



【受検者数】 5年生 111名 6年生 95名 ※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。